

教養と人間力を備えた良き医療人を目指して、ともに佐賀で学ぼう



佐賀県が、 あなたを 医学部に 推薦します。



医師には、学力では測れない資質があります。

患者さんの不安に寄り添うやさしさ。

命に向き合う忍耐力。高い志。

『佐賀県推薦入学特別選抜』では

学力はもちろんのこと、

医師としての人間力まで重視します。

佐賀大学から、世界にも誇れる

医師を輩出したい。

その想いで、最終合格者数を

昨年度の倍以上に増員しました。

医学部受験に挑む、

あなたのご応募を

お待ちしております。



今年度より推薦枠の最終合格者数が
4名 → 10名
に増員!

令和7年度 佐賀大学医学部医学科 佐賀県推薦入学特別選抜学生募集

出願期間 及び 試験日

第1次選考 佐賀県

- 第1次選考出願期間 令和6年10月15日(火)～25日(金)
- 第1次選考(面接試験) 令和6年11月9日(土)・10日(日)
- 第1次選考結果発表 令和6年11月12日(火)

※出願者数によっては、書類審査を行う場合があります。

第2次選考 佐賀大学

- 出願期間 令和6年11月13日(水)～18日(月)
- 第2次選考 令和6年11月23日(土)
- 共通テスト 令和7年1月18日(土)・19日(日)
- 合格発表 令和7年2月12日(水)

受験対象者

- 佐賀県内で医療活動に従事する意志のある方
- 出身高校所在地は県内外を問いません
- 高校卒業後2年以内の方 (令和7年3月に高校卒業予定の方を含む)

選考方法

- 第1次選考は佐賀県が行います。
- 合格者は佐賀県の推薦により佐賀大学医学部による第2次選考を受験する資格を得ます。
- 最終合格者は10名(予定)です。

入学後の義務

- 在学中は佐賀県医師修学資金の貸与を6年間受けていただきます。
- 卒業後は佐賀県内での臨床研修を含む9年間、医療機関において診療に従事していただきます。(臨床研修後は、佐賀県内の所定医療機関の指定診療科(※)で診療に従事していただきます。)

※内科、小児科、外科、産婦人科、脳神経外科、麻酔科、救急科、総合診療科
詳しくは「佐賀県医師修学資金等の手引」および「佐賀県キャリア形成プログラム」をご覧ください。



佐賀県 医務課 医療人材政策室

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1-59
TEL : 0952-25-7358 E-mail : imu@pref.saga.lg.jp

佐賀県推薦入学特別選抜

さがで働く医師を応援
佐賀県医師支援サイト ▶



令和7年度 佐賀大学医学部医学科 佐賀県推薦入学特別選抜学生募集

© 2024 Saga Prefecture.



この入試枠で求める 佐賀県が“推す”人材とは…

- 佐賀県で医師として地域に貢献したい人
- 医師が不足して困っている地域や診療科を支えたいという意志のある人
- 佐賀県が好き! 佐賀県で働きたい! という思いのある人

なぜ 推薦入学特別選抜を行うのか？

高齢化に伴い増加する医療需要への対応が求められる中、誰もが安心して医療サービスを受けられるよう、将来の動向を見据えながら、医療提供体制を構築する必要があります。県内の医師数について、人口10万人あたりの水準による比較では、県全体で全国平均を上回っていますが、一部の地域及び診療科では、更なる医師の育成・確保が必要です。本制度は、今後、佐賀県において特に必要とされる医師を育成することを目的としており、卒業後、指定の診療科を専攻し、県内の各地域で医療活動に従事する医師を目指す方を求めるために実施します。



医師のキャリアイメージ



佐賀県医師修学資金

貸与期間[6年間]

臨床を含む必要勤務期間[9年間]

※詳しくは「佐賀県医師修学資金等の手引」をご覧ください。

佐賀大学医学部 キャンパスライフ

佐賀県がサポートするイベントの一例

佐賀大学・自治医科大学・長崎大学 合同夏期実習 [1~4年生対象]



病院訪問 ■ 施設見学・講義 など



離島実習 ■ 診療見学・診療体験 など

[場所] 加唐島・小川島・馬渡島 など



グループディスカッション

夏期実習参加者の感想

医学部1年生

最先端の在宅医療の技術に触れたり、高齢者の方が通う施設の職員さんのお話を聞いたりすることで、大学の授業だけでは分からなかった実際の医療現場を知ることが出来ました。また、先輩の医師からは、身に染みる人生の助言をいただき、非常に感銘を受けました。

1年生の間にこんなに貴重な経験が出来て、本当に良かったと思っています。

医学部2年生

この実習を受けるまでは、在宅医療について曖昧にしか理解していませんでしたが、地域住民のライフスタイルや価値観に沿った医療の提供という側面が強く、高齢化社会において不可欠な診療形態であることがよく分かりました。

今後、地域医療を担う医師となるために、自分が活動する地域の特性を理解するというプロセスを大切にしたいと考えてようになりました。

医学部3年生

3日間の夏期実習の中で、病院や施設を実際に見学させていただき、医療の現場に直接することの重要性を改めて強く感じました。

また、実習を通じて、佐賀の地域医療に関する知識を深められただけではなく、他大学の学生とおしゃべりしたり、グループワークで意見を交換したりすることで、互いの交流を深めることが出来ました。

佐賀大学医学部附属病院

産婦人科医
よし たけ かおる こ
吉武 薫子 先生



命を助ける医師になりたい

9歳年上の姉が自治医大に入学したことがきっかけで、医師という仕事に興味を持ったのが小学3年生。本格的に「医師になりたい」と思ったのは、小学5年生のときです。父が脳疾患で倒れ、死ぬかもしれないという状況の中で、医師に命を助けてもらいました。感謝と同時に命を助けることができる職業の素晴らしさを感じて、医師を志しました。

母子の初対面!! 素敵な笑顔に感動

小学6年生のときには、すでに産婦人科医を目指していました。地元の産婦人科で職場体験をしたとき、お母さんが帝王切開で産まれた赤ちゃんを初めて抱っこする瞬間に立ち会いました。そのときのお母さんの笑顔は今でも忘れられません。とても感動し、こんな素敵なシーンを作り出せる産婦人科医になろうと決めました。

「先生でよかった」のひと言で頑張れる

医療の世界も働き方改革が進み、ほとんどの場合、定時に帰ることができます。振り返れば産婦人科医1年目はきつかったです。でも自分のペースをつかむと、余裕もできて楽しく仕事ができるようになりました。

お産も病気も外来受診から退院まで、長い時間を患者さんとともに過ごします。退院するときの「先生でよかった」というひと言が嬉しくて、多少きついことがあってもその言葉だけで頑張れます。

佐賀が大好きだから恩返し

佐賀大学医学部附属病院では、若い医師が手術をはじめ、たくさんの症例にかかわらせてもらえますし、講習会や後輩指導の勉強会などにも全国各地に積極的に送り出してくれます。競争が激しい都会より、自分を高めるチャンスが多いというのが私の実感です。それに佐賀の患者さんはみんな優しいんですよ。

私は佐賀が大好きです。大学も佐賀を離れなくなかったので、「佐賀県推薦入学特別選抜」を受験しました。大好きな佐賀へ恩返しができるよう、これからも自分を磨いていきたいと思っています。

先輩の体験談

命の危機に瀕している人を助けたい

医師を目指す人は基本的に「人を助けたい」という人が多いと思いますが、僕は「命の危機に瀕している人、を助けたい」という気持ちが強かったです。いつ頃から医師を目指したかは覚えていませんが、小学6年生の卒業アルバムには「医師になりたい」と書いていました。父が生死に直結する心臓血管外科の医師ということも影響しているのかもしれませんが。

学びを活かせる実習は楽しい

入学して約半年は一般教養の授業が続き拍子抜けしましたが、2年生になると解剖など基礎医学の勉強が始まり、忙しくなります。部活動の先輩に、勉強のやり方を教えてもらい助かりました。

5年生になるといよいよ病棟での実習がスタートします。朝8時半に病棟に行き、レクチャーを受けてからカンファレンスが始まります。1人の患者さんを受け持ち、学生なりに考えてカルテの作成なども行います。勉強したことを活かせる実習は楽しいです。

部活動で人とのつながりを広げる

先輩から勉強のやり方だけでなく、いろいろな情報も得られるので部活動はお勧めです。僕はボート部に入部しました。体力も付き、大好きなボートが毎日できるのは幸せです。僕がやっている種目は1クルー(チーム)5人で構成されるため、チームワークが大事です。これは医療にもつながる大切なことだと思います。

2023年、「西日本医科学生総合体育大会」で僕たちのクルーが優勝しました。ボート部開部以来の快挙でした。OBの方々からもお褒めの言葉をいただき、頑張ってたかったと思っています。

初心を忘れず地域医療に貢献したい

患者さんの命を救い、なおかつ普段の生活に戻ってもらう。こんなに大きな喜びと満足感を感じられる職業はほかにないと思います。

今、地域によって医師不足や専門医の偏りがあります。助けが必要な患者さんを放って置くことはできません。僕には「命の危機に瀕している人を助けたい」というモチベーションがあります。佐賀県が好きで佐賀の地域医療に貢献したいと考えている僕にとって、この県推薦入学特別選抜はぴったりな入試制度でした。

常に患者さんの立場に立ち、初心を忘れずに謙虚であり続けたいと思います。皆さんも一緒に地域医療に貢献しませんか。

佐賀大学医学部医学科

5年生
かも はら りん すけ
蒲原 隼介 さん

